錦織監督　映画の現場から　●○● 47

本物の文化の伝承

経済活動や観光につながる

東京国際映画祭で韓国主催のレセプションが行われた。韓国の政府関係者のあいさつが終わると、大型スクリーンに韓国各地のロケーションや韓国国内での映画撮影風景が映し出された。大音響とともに描かれるそのさまは迫力満点。アクション映画や文芸作品などたくさんの作品が製作されているのがうかがえた。

最後に「韓国で映画撮影をすると」「制作費の25％キャッシュバック！」という字幕スーパーが大写しになった。思わず日本の関係者がざわめく。経産省の調査では韓国は日本円にして約850億円の年間予算を組み、映画産業を支えている。映画館は国産映画を全体の7割以上上映することが義務づけられているので、多くの国民は映画を通して韓国の文化や歴史などを感じる。

そのやり方の是非は問わないが、政策は功を奏し、韓国映画やドラマが大量に日本に入ってくることになった。俳優や女優のコメントや立ち居振る舞い、映像で見る風景や歴史物語を通じて韓国に親近感を持つ人が増え、韓国産の電気製品などを手に取る若者が増加、韓国への日本人観光客も何倍にもなった。文化を理解することが、経済的問題や安全保障の問題などと密接に関係していることを、韓国の映画への姿勢からあらためて感じている。

知識の詰め込みだけでは分からない、大切なものが、伝承されている文化活動の中にあると思う。売れるもの優先ではなく、人々の生活や生き方でもある文化を伝えることの結果が、経済活動や観光につながっているといえよう。

世界各国の映画製作の取り組みと、日本との違いは顕著だ。「渾身（こんしん）」で描いた隠岐の古典相撲、「うん、何？」に登場する掛合太鼓、大東の七夕祭り、「RAILWAYS」のホーランエンヤ、「白い船」の神楽をはじめ、博多の山笠、長野の御柱祭り、岸和田のだんじり祭りなど、全国には損得抜きに、誇りとして、楽しみとして、長きにわたって伝承されている、素晴らしい文化がたくさん残っている。

奥出雲に伝わるたたらの製鉄技術を筆頭に、多くの伝統技術も、現代において必要とされる〝本物〟だからこそ伝わっていると思う。日本を訪れる年間の海外観光客数が500万人余りというのは、先進国ではかなり低い。〝便利〟さを追求するあまり、多くの伝統文化や自然環境を守れなくなってしまえば、観光客増も見込めず、経済的に〝不便〟になってしまうだろう。

キャラクターグッズやパワースポットなどサブカルチャーブームも良いが、海外の観光客が倍増するだけのポテンシャルがわが古里にはある。メインカルチャーの時代である。

（錦織良成・映画監督）

＝4月から第4金曜掲載

映画「渾身」より　清一から多美子へ新鮮な魚が…